

没理想論争とその影響

坂井 健（佛教大学文学部教授）著

【2016年2月刊行予定】

A5判・368頁／定価：本体8,900円（税別） ISBN978-4-7842-1834-9

明治の文学者たちは、イデー（目に見える現実の世界を越えたところに存在する物事の本質）をどのように把握し、表現しようとしたのか。

明治24年以降、『早稲田文学』と『しがらみ草紙』を舞台に坪内逍遥と森鷗外との間で繰り広げられた「没理想論争」を軸に、明治の文学者たちがイデーと現実との関係をどのように捉えようとしたのか、またこの論争が文学史にどう影響したのかをたどる。

【予定内容目次】

序 章

第一部 没理想論とその時代

- 第一章 没理想論成立のころ——宗教の混乱とユニテリアン——
- 第二章 「真理」の時代——二葉亭・逍遥・嵯峨の屋など——

第二部 世界観と認識論の対立

- 第一章 二葉亭四迷「真理」の変容——仏教への傾倒——
- 第二章 没理想論争の実相——観念論者逍遥と経験論者鷗外——
- 第三章 没理想論と老荘思想
- 第四章 没理想論争と仏教
- 第五章 シュヴェーグラー『西洋哲学史』と没理想論争

第三部 揺れていた「想」

- 第一章 観念としての「理想（想）」——鷗外「審美論」における訳語の問題を中心に——
- 第二章 『月草』における改稿の意図——「逍遥子の諸評語」における異同をめぐって——
- 第三章 没理想論争の発端——斎藤緑雨と石橋思案の応酬をめぐって——
- 第四章 没理想論争の背景——想実論の中で——

第四部 没理想論争の影響

- 第一章 高瀬文淵と森鷗外——「超絶自然論」と「脱却理想論」を中心に——
- 第二章 没理想論争と田岡嶺雲——禅の流行と自然主義の成立——
- 第三章 没理想論争と田山花袋——『野の花』論争における『審美新説』受容の評価をめぐって——
- 第四章 田山花袋と高瀬文淵——花袋のハルトマン受容をめぐって——
- 第五章 鷗外の具象理想美学とその影響——日清戦争後の文壇と花袋と——


第五部 鷗外とハルトマン

- 第一章 没理想論争における鷗外とE.V.ハルトマン
- 第二章 鷗外がハルトマンを選んだわけ
- 第三章 森鷗外「審美論」と本保義太郎筆録「美学」ノート
- 第四章 鷗外のサービス精神——本保義太郎筆録「美学」ノートの独自性——

さかい たけし・・・1962年新潟県生。新潟大学人文学部卒。同大学大学院修士課程修了。筑波大学大学院文芸・言語研究科単位取得中退。同大学文芸・言語研究系助手等を経て佛教大学文学部教授。「鷗外・逍遥から見た正岡子規」（『国文学 解釈と鑑賞』75巻11号、2010年）「鷗外のサービス精神—本保義太郎筆録「美学」ノートの独自性—」（『文学部論集（佛大文学部）』2007年）など。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発売：思文閣出版		（京都 取引コード 3402）	
冊数	冊	没理想論争とその影響	本体8,900円（税別）	ISBN978-4-7842-1834-9	
お名前			tel	本書HPのQRコード 	
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	代引（書籍代＋消費税＋送料400円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担） ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎				

幸田露伴の世界

井波律子・井上章一編

さまざまな分野の研究者が、小説や評論など文学面はもちろんのこと、都市・遊技・旅行・自然観察・人生論等々の著作を通じて多様な角度から幸田露伴にアプローチした共同研究13篇。

【執筆】井波律子／池内紀／白幡洋三郎／猪木武徳／細川周平／平松隆円／佐伯順子／井上章一／鈴木貞美／岩井茂樹／劉建輝

▶A5判・318頁／本体5,000円(税別) ISBN978-4-7842-1444-0

言語のあいだを読む 日・英・韓の比較文学

大澤吉博著

東京大学大学院で比較文学の指導に当たり、在職中に急逝した氏の研究成果。その主題は夏目漱石、漱石を中心とした日本文学の他言語への翻訳、外から見た日本文学と日本文化、そしてイギリスと世界との関わりである。30年以上にわたる多彩な研究の全体を広く学界に提示する遺稿集。

▶A5判・550頁／本体9,000円(税別) ISBN978-4-7842-1524-9

漱石と世界文学

坂元昌樹・田中雄次・西楨偉・福澤清編

「世界文学において漱石をとらえなおす」という視点のもと、夏目漱石が世界文学を意識し、そこから多大な影響を蒙ったことの検証だけでなく、漱石がその後の日本文学を含め世界文学に与えたインパクトや、世界で漱石文学が翻訳のかたちでいかに受容されたのかなども見極める9篇。

▶A4判・262頁／本体2,800円(税別) ISBN978-4-7842-1460-0

越境する漱石文学

坂元昌樹・西楨偉・福澤清編

熊本大学の研究プロジェクトによる漱石論集の第3弾となる本書では、第1部において、漱石と世界文学との関わりを考察。第2部において「越境」の実践としての「漱石と熊本」という視点から、漱石の熊本時代の評論、エッセイ、交友関係を考察する。

▶A4判・284頁／本体2,800円(税別) ISBN978-4-7842-1565-2

※一九二〇年代東アジアの文化交流Ⅰ・Ⅱ

川本皓嗣・上垣外憲一編 大手前大学比較文化研究叢書6・7

大正デモクラシー下の日本では、好景気と安定した国際関係により、海外交流が新展開を見せた。明治期の交流にくらべて研究の事例も少なく、未開拓の部分も多い1920年代の東アジア文化交流の様相を、当該各国の研究者を結集することによって、明らかにする。

I ▶A5判・232頁／本体2,800円(税別) ISBN978-7842-1508-9

II ▶A5判・274頁／本体2,500円(税別) ISBN978-7842-1584-3

日本文学の「女性性」

増田裕美子・佐伯順子編

二松學舎大学学術叢書

紫式部・清少納言…世界の文学史上に輝く女性作家たち。『土佐日記』にみられる紀貫之の女語り。日本文学の文学性は、「女性性」と分ちがたく結びついている。本書は、日本文学と女性性の問題を正面から議論した成果として、「純文学」からライトノベルまで多様な角度からアプローチした9論文を収録。

▶A5判・232頁／本体2,300円(税別) ISBN978-4-7842-1549-2

与謝野晶子と小林一三

逸翁美術館編

与謝野晶子が小林一三に贈った「源氏物語礼讃歌」短冊全54枚(カラー)、これを詠むきっかけになった、上田秋成筆「源氏物語短冊貼交屏風」(カラー)をはじめ、その由来を記した手紙や、交流を物語る資料116点を収録した、逸翁美術館特別展覧会の展示図録。

▶A4判・94頁／本体1,000円(税別) ISBN978-4-7842-1567-6

※正岡子規入門

和田茂樹監修／和田克司編

写真を中心に子規の生涯をたどる“目で見る”伝記をはじめ、俳句・和歌・漢詩・その他の文章といった子規の創作活動や、夏目漱石との交友など周辺の人々との関わりを解明し、近代俳句の確立者である正岡子規の全体像を明らかにする。

▶B5判変・120頁／本体1,942円(税別) ISBN4-7842-0768-6

夏目漱石における東と西

松村昌家編

大手前大学比較文化研究叢書4

明治の文豪、夏目漱石の小説において、そこに織り込まれた西洋的概念と東洋的概念の葛藤、直接影響を受けた小説との比較、イギリスの事物の受容の様相など、気鋭の研究者たちによる漱石文学論。

【内容】小説美学としての「非人情」／『吾輩は猫である』におけるメランコリーと神経衰弱／「甲羅ノハヘタル」暗示 ほか

▶A5判・208頁／本体2,800円(税別) ISBN978-4-7842-1335-1

翻訳文学の視界 近現代日本文化の変容と翻訳

井上健編

直訳と意識、翻訳者の役割、原作者の言語意識……。言語が自国文化と深く関わる以上、翻訳文学はつねに複雑な要素をはらむ。最前線で活躍中の研究者たちが、比較文学・比較文化研究の立場から翻訳文学の諸相を語り可能性を探る。

▶A5判・300頁／本体2,500円(税別) ISBN978-4-7842-1600-0

漱石文学の水脈

坂元昌樹・田中雄次・西楨偉・福澤清編

漱石の文学がどのような思想と背景のもと生み出されたのか、また日本を含む東アジア文化圏においてどのように受け入れられ、どのような影響を与えてきたか、「<漱石>への水脈」と「<漱石>からの水脈」という二つのテーマから検証する10篇。漱石ゆかりの熊本大学の教員を中心とした共同研究の成果。

▶A4判・280頁／本体2,800円(税別) ISBN978-4-7842-1506-5

軍医森鷗外のドイツ留学

武智秀夫著

大文豪・森鷗外が青年時代にドイツへ留学したことはよく知られている。しかしドイツ留学の目的は文学でなく、陸軍軍事制度調査と衛生学研修であった。本書は医学史の立場から、軍医としてドイツに渡った青年森鷗外の留学の実態を明らかにする。

▶A5判・352頁／本体3,000円(税別) ISBN978-4-7842-1754-0

一九三〇年代東アジアの文化交流

上垣外憲一編

大手前大学比較文化研究叢書9

未開拓の部分が多い1930年代の東アジアの文化交流。当該各国の研究者を結集してその様相を解明する。世界恐慌のため鎖国経済化が進み、東アジアでは、満洲事変を皮切りに世界大戦へと発展する時代。戦争の影で見落とされがちな当時の文化交流を様々な視点から論じる。

▶A5判・258頁／本体2,800円(税別) ISBN978-7842-1687-1

谷崎潤一郎と世紀末

松村昌家編

大手前大学比較文化研究叢書1

大手前大学で行われた第62回日本比較文学学会全国大会のシンポジウムをもとに、海外における谷崎評価も踏まえ、比較文学的見地から谷崎の文学に迫る。さらに、谷崎が世紀末的デカダンスの洗礼を受けたとされるノルダウの「世紀末」とクラフト＝エービングの「マゾヒズム」の翻訳を収録。

▶A5判・212頁／本体2,800円(税別) ISBN4-7842-1104-7

※晶子と寛の思い出

与謝野光著

与謝野晶子没後50年に際し、明治35年生れの長男が、家庭における寛(鉄幹)と晶子、そして新詩社に集まった多彩な浪漫派歌人たちの思い出を語る。【内容】堺時代の晶子／晶子の上京／君死にたまふことなかれ／渋谷時代／千駄ヶ谷時代／石川啄木と平出修／『スバル』／東紅梅町時代／渡欧／富士見町時代／文化学院／関東大震災 ほか

▶A4判・270頁／本体1,748円(税別) ISBN4-7842-0668-X

※石川啄木入門

岩城之徳監修／遊座昭吾・近藤典彦編

自筆の原稿、歌・詩稿ノートなどカラー16頁の巻頭アルバムをはじめ、300余点に及ぶ写真史料を中心に構成した“目で見る”伝記、作品鑑賞の手引となる名作事典、啄木の足跡をたどる歌碑めぐり文学紀行ほか、研究史、年譜などを収録。啄木とその文学を知るには最適の入門書。

▶B5判変・164頁／本体1,942円(税別) ISBN4-7842-0743-0